

はじめに

教育研究所長 千葉 杲弘

1995年度教育研究所紀要「教育研究」第38号が出来上がりました。本年度もこの刊行にあたり、多くの研究所員の寄稿の御申し込みがあり、皆様の御協力に感謝いたします。

本号は、本年をもって御退任される Ben Duke 先生と小林英智先生のこれまでの御業績と御貢献を讃え、お二人の先生に捧げる記念号といたします。お二人の先生の I C U の教育ならびに学問研究に果たされた御功績について、Duke 先生については中野照海先生、そして小林先生については R.H. Thrasher 先生にそれぞれ御献辞をいただきました。お二人の先生も御健康に恵まれ、一層の御活躍を続けられることを衷心より御祈り申し上げます。

さらに、本号では、I C U 教育学大学院で博士号を取得された岡林秀樹君に博士論文の要旨を發表していただきました。これまで研究所で助手として所長を補佐した岡林秀樹君と永田佳之君はそれぞれ他によき研究の職を得て、新しい研究生活の途につきました。ここに両君の研究所に対する尽力に謝意を表します。

教育研究所は、昨年に引き続き諸国における高等教育機関の選考制度についての研究を進めて来ましたが、本年は中国、台湾、香港、韓国、フィリピン、タイの6か国の調査を行ない、昨年のオーストラリア、カナダの研究に加えて、2年間の研究成果を別冊にて発表する予定にしております。

本研究所は、1995年9月5日から8日まで東京で開催された日本ユネスコ協会連盟主催の国際識字10年中間年NGO世界会議の運営に全面的に協

力し、同会議を大成功に導きました。さらに9月28日から30日まで研究所が後援した日中友好交流書道展が東京都調布市旧中央公民館で開催され、大盛況を博し、10月1日にはICUにおいて日中書法実技交流が行なわれました。

本研究所も従来の個々の研究員の研究発表を中心とした組織から、学生に対する情報提供、学外の諸機関との協力、特別共同研究等、多様な活動に従事するようになり、将来の展望について検討する時期に来ていると思われま
す。この点については拙稿「国際化と教育研究所の新しい役割」について私見を述べましたので、御意見、御批判を御寄せいただきたいと思います。